

夢窓幼稚園通信第66号

2019年 11月 28日

秒針のある時計を 木の思いにふけりながら、眺めるともなく眺めていると、ゆっくり時が過ぎていきます。途切れることなく流れる時間を与えられ、その中で生きられるのは幸せだと思います。

夕日が、ずっと向こうの水平線に沈んでいく様子は、ゆっくりですが確かに 海に向かって刻々と近づき、そしてやがて溶け込んでいくドラマです。おひさまは大きく堂々としているなあ……と思います。決して急いだりしませんから…

澄んだ夜空に オリオン座が大きく動いていきます。あんなに広い空を、もうぐんぐんと昇っていくのですから…ゆっくりに見えながら すごい力強さです。世界は驚きで満ちています。

うーと伸びをして、「おはようございます」。そんな世界に、今日も目覚め過ぎということは、一日いちにちに、大切な意味があるということなのでしょう。

「『イ(にんべん)』に『夢』と書いて『儚(はかない)』なんだねえ!」と、先日娘が気がついて叫んでいました。

確かに私たちの生活や人生の中で、思いや願いが通らなからたり、夢がこわれていくことの方が、うまくいったり実現できる以上にずっと多いことでしょう。

人の夢は 実際 はかないのかもしれませんが、しかしまた、その切なさの中で あらためて立ちあがること、夢を抱き続けること、夢に向かって自分の第一歩を踏み出すことが、だからこそ私たちの生きる意味なのかもしれません。

時計の秒針が ひとつ進む瞬間 — 子どもたちが何か新しい発見によるこびの声をあげ、私たちがそこに微笑を贈れる一瞬— にも、確かに おひさまが ゆったりと沈み、オリオンが誇り高く昇っていきます。

「あけまして おめでとう ございます」の今年の元日から今日まで、私たちは 332日 過ごしてきました。もうすぐ 今年のさいごの月 12月を迎えます。私たちの今年はまだ33日、792 もの時間が待ってれています。

ひとつひとつの時を受けとめ 祝祭のときに向かっていきたいと思えます。

今年の犬根みがきも、はじめての「わくわくおやつの日」も ありがとうございます。

やってくる師走も どうぞ よろしくお願ひします。

園長 舟光 泰雄